

弘大医学部附属病院 院内コンサート

演奏 弘前大学医学部管弦楽団

X'MAS CONCERT 2018

2018 12/20 THU

フルート・ソロ：中山 綺乃（医学科6年）

ファゴット・ソロ：高橋 亜実（医学科3年）

指揮 & フルート：馬場正之（県立中央病院 医療顧問）

PM 6:45～

外来待合ホール

奏者の紹介

○弘前大学医学部管弦楽団

当楽団は弘大医学部創立50周年の1994年に結成された室内オーケストラです。その記念式典で医学部職員と学生によるパッサ管弦楽組曲の祝賀演奏（フルート独奏：馬場正之）が関係者に大きな感銘を与えたことから、歴代医学部長と関係者のご尽力で学生と教職員による当楽団が正式に立ち上げられ、当時の耳鼻科教授で弘前交響楽団のコンサートマスターであった新川秀一氏をリーダーとし、教養部で古典音楽楽理を講じていた馬場神経内科助教授を常任指揮者として活動を開始しました。あれから20数年、新川教授が退職して仙台に行かれ、馬場が県立中央病院に移動した後も当管弦楽団は活発な活動を続け、今日まで沢山の医学部学生が合奏や音楽づくりの楽しみを身につけて巣立ちました。主たる演奏の場は弘大病院や県病での四季折々の院内コンサート、弘大祭コンサート、解剖体慰霊祭および医学部関連学会の懇親会ミニコンサートなど。ほとんどの学生は医学部入学後に初めて楽器を手にした初心者ですが、大勢のなかの一人ではなく、一人ひとりが積極的に合奏に加わる室内楽的な響きを目指して練習を積み重ねています。今年6月に来校された際に共演したヴィオラの名手、ドイツ・フランクフルト大学の外科医マーチン・ストーク教授は、当楽団の充実した合奏に大変感激され、近い将来の再演を望んで帰国されたほどです。

これまで取り上げてきた曲は、沢山のパッサ作品、パッサの息子達やテレマン、パッヘルベル、ヘンデル、コレリ、ヴィヴァルディの管弦楽作品、そしてハイドン、モーツァルトの交響曲やセレナーデなどです。今夕のクリスマスキャロル演奏には、今年4月に入部して初めて楽器を手にした新生が、半年の練習期間を経て、初めて合奏に加わります。また、この3月に卒業予定の中山綺乃さんによるヴィヴァルディのフルート協奏曲演奏を在校生の高橋亜実さんならび団員全員が協力して盛り上げます。熱演にご期待下さい！



プログラム

1. モーツァルト：セレナーデ第7番“ハフナー”ニ長調 Kv250 より
アルグロとメヌエット
2. クリスマスキャロル・メドレー：その1
クリスマスおめでとう - 荒野のぼては - 我らはきたりぬ - 聖夜 - 神の御子は - 御使い歌いて
3. ヴィヴァルディ：2つのフルートのための協奏曲 八長調 RV533
4. クリスマスキャロル・メドレー：その2
諸人こそぞりて - 陽気なサンタのおじいさん - 世のひと忘るな - もみの木 - ジングルベル

主催：弘前大学医学部附属病院

協賛：一般財団法人 弘仁会